

台風や集中豪雨から身を守る

近年、全国的に巨大台風や集中豪雨が発生し、洪水や土砂災害などで、多くの尊い命が失われています。ふだんからテレビやラジオなどの気象情報に注意して、土砂災害や洪水のおそれがある場合には、早目の避難を心掛けましょう。

災害は、「いつ」「どこで」起こるか分かりません。災害の危険が迫ったときや災害が起きたときに最も重要なことは、市民の皆さん一人一人が命を守るための適切な行動をとる、ことです。そのためには、日頃からの心構えと備えが大切になります。「災害が起きたときには、どのように行動したらよいか」、日頃、災害に備えて、どのような準備をしていたらよいか、適切な知識を持ち、いざという時のためにしっかりと備えておきましょう。

事前の準備

市では、災害の危険が迫ったとき、避難勧告などを発令して避難を呼び掛けます。災害から身を守るために、ふだんから避難について考え、備えましょう。

- 地域の危険箇所や避難場所、避難経路を確認
- 地域によっては、地震や洪水、土砂災害など、災害の種類によって避難場所が異なる

雨量を知る
「1時間に30ミリメートル以上の激しい雨が降るおそれがあります」

皆さんも、ふだん、天気予報などで耳にしたことがあるかと思いますが、「強い雨」や「激しい雨」といった雨の強さを表す表現、実際にはどう



自主避難計画の作成に取り組む黒保根町下田沢町会の皆さん

避難方法の種類

	いつ	避難場所の例		避難方法
		屋内	屋外	
待避 (自宅内避難)	遠くへ避難することが危険なとき	自宅などの居場所	安全を確保できる場所	自宅などの居場所や安全を確保できる場所に留まる
垂直避難 (自宅内避難)	激しい雨や夜間などで外に出ることに不安や危険を感じる時(緊急避難)	自宅の2階、居住建物の高層階	-	屋内の2階以上の安全を確保できる高さに移動する
水平避難 (屋外避難)	台風の襲来が予想されるなど、事前に安全に避難できるとき(事前避難)	市が指定する避難場所、親戚宅など	公園、広場、高台、高所、近隣の高い建物	その場を立ち退いて、近隣の安全を確保できる場所や親戚宅など市内に限らず、より安全な場所へ一時的に移動する

※「待避」、「垂直避難」は、緊急時、切迫時に行われる次善の策である場合が多いことに留意しましょう。あくまでも安全に移動できる段階で指定避難場所などの安全な場所へ早目に避難することが大原則です。

雨の強さと降り方

1時間の雨量(mm)	雨の強さ(予報用語)	人の受ける印象	屋外の様子	車に乗っている	災害発生の目安
10以上 20未満	やや強い雨	ザーザーと降る	地面一面に水たまりができる	-	この程度の雨でも長く続く時は注意が必要
20以上 30未満	強い雨	どしゃ降り	道路が川のようになる	ワイパーを速くしても見づらい	側溝や下水、小さな川があふれ、小規模の崖崩れが始まる
30以上 50未満	激しい雨	バケツをひっくり返したように降る	道路が川のようになる	高速走行時、車輪と路面の間に水膜が生じブレーキが効かなくなる	山崩れ・崖崩れが起きやすくなり危険地帯では避難の準備が必要 都市部では下水管から雨水があふれる
50以上 80未満	非常に激しい雨	滝のように降る(ゴーゴーと降り続く)	水しぶきであたり一面が白っぽくなり視界が悪くなる	車の運転は危険	都市部では地下室や地下街に雨水が流れ込む場合がある マンホールから水が噴出する 土石流が起こりやすい 多くの災害が発生する
80以上	猛烈な雨	息苦しくなるような圧迫感がある恐怖を感じる	息苦しくなるような圧迫感がある恐怖を感じる		雨による大規模な災害の発生するおそれが強く、厳重な警戒が必要

の備蓄品の準備

持ち出し品は、避難場所までの距離などを考え、持って避難できるだけの必要量にしましょう。

備蓄品は、3日分程度を目安としましょう。

● 家族との連絡方法を確認
災害が起きたとき、まず心配になるのは家族の安否です。いざという時の連絡方法をあらかじめ家族で決めておきましょう。

防災・気象情報の収集

● 身の安全を確保して、正確な情報の収集
災害のときは自分の身の安全を確保し、テレビやラジオなどからの気象情報や避難情報などに注意しましょう。

● データ放送の活用
テレビのリモコンにある「dボタン」を押すと、テレビを見ながら気象情報や避難情報などが確認できます。操作は、ボタンを押すだけで簡単です。一度試してみてください。

日頃からテレビのデータ放送で気象や災害情報を確認

のような降り方をするか御存知ですか。また、雨の降り方から事前に災害発生の危険性を知ることができま

「雨の強さと降り方」については、左の表にまとめましたので、御覧ください。雨に関する正しい知識を持ち日頃から災害に備えましょう。



テレビリモコンのdボタンを押すと気象情報などが御覧になれます

● 市の防災情報の伝達手段
市が避難情報を伝達する主な手段は次のとおりです。
・緊急速報メール
・桐生ふれあいメール
・防災ラジオ

宝くじの助成金でまちづくり

財団法人自治総合センターでは、宝くじの収益金を財源に、コミュニティ助成事業を行なっています。この宝くじの助成事業を活用し梅田町自治会連合防災会議では、防災活動の充実を図るため防災倉庫・防災備品を整備し、地域コミュニティの中心となる公民館に設置しました。問い合わせは、安全安心課防災係(☎内線415)へ。

- ・防災行政無線
- ・市ホームページ
- ・ツイッターなどのSNS
- ・自治組織
- ・自主防災組織
- ・広報車

命を守るための避難

風水害などの災害による人的被害に遭わないためには「早目の避難」が重要です。「一口に「避難」といっても、災害の種類や切迫性など、おかれた状況によってとるべき行動は異なります。「避難方法の種類」については、次ページの左の表を御覧ください。いざというときにとるべき対応を一人一人が状況に応じて自らが判断し、適切な行動をとることが大切です。

こんにちは！市長です



「桐生市観光イメージアップ映像」を御覧になりましたか。産業観光都市をテーマに日本語のほか、外国人向けに英語、中国語、韓国語で編集し、桐生市出身でミスアース日本代表の山田彩乃さんに特別出演していただきました。特に撮影には視覚とイメージを重視し、桐生の「品格」が表現できたと自負しています。YouTubeで視聴できるほか、DVDの貸し出しも行っています。こうした取り組みのほか、先日は「桐生市地域おこし協力隊」に、地方に関心を持つ2人を委嘱しました。早速、特産物の販売促進や高齢者対策などに従事し、ホームページで桐生市の魅力を発信してくれています。外からの視点を、どう地域の活性化に生かし、桐生市のブランド力を向上させるか。今後も社会の動向を見極めながら、効果的な方策を講じていきます。